

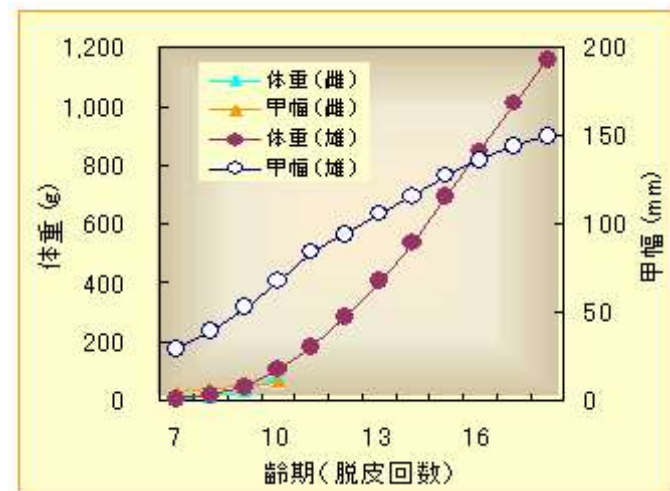
ベニズワイガニ *Chionoecetes japonicus*

北海道西系群 担当：北海道区水産研究所



生物学特性

- 寿命： 不明（脱皮回数を示す齢期は判明しているが、脱皮間隔が不明）
- 成熟開始年齢： 不明
- 産卵期・産卵場： 不明
- 索餌期・索餌場： 漁場は、津軽海峡西方から利尻島北西沖にかけての800m以深（中心は1,000～1,200m深）の水域
- 食性： 不明
- 捕食者： 不明



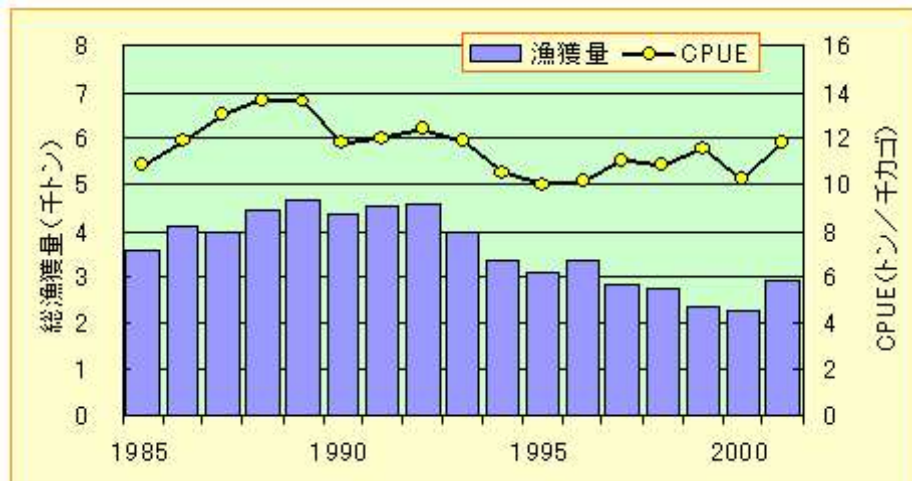
漁業の特徴

北海道におけるベニズワイ漁はかにかごによって行われる。主に缶詰製造に用いられるが、ズワイガニの減少に伴いゆで出荷されるものが多くなった。操業隻数は少なく、2001年は5隻であった。操業は、茂津多岬以南と以北の海域に分けて行われている。資源保護の見地から、漁獲の対象は甲幅95mm以上の雄のみに制限されているほか、茂津多岬以北では許容漁獲量が自主的に設定されている。

操業期間は年によって変化し、2001～2002年には、茂津多岬以南では4～9月、以北では7月～翌年4月と、両海域間でずれがあった。集計にあたり、茂津多岬以北海域における翌年分の漁獲については、前年分の漁獲に足し合わせて扱った。

漁獲の動向

1990年代以降、漁獲量は減少傾向にあったが、2001年度に再び上昇に転じた。これは、茂津多岬以南海域における漁獲量の上昇が主たる要因であり、その背景には、操業隻数の増加とそれに伴う漁獲努力量の増加がある。茂津多岬以北における漁獲が海域全体の漁獲量の7～8割を占めているが、許容漁獲量の制約を受けた値である。

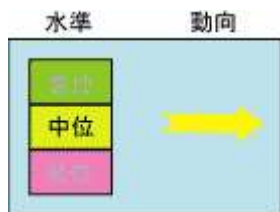


資源評価法

漁獲量全体の7～8割を占める茂津多岬以北海域の漁獲量が、あらかじめ定められた許容漁獲量によって制限されていることを考慮すると、漁獲量の動向から資源水準および動向を判断するのは適切でない。そこで、CPUEを資源水準の指標として用い、その変化から資源の動向を推測した。

資源状態

1985年以降のCPUEの推移から資源水準を、また最近5力年のCPUEの動向から資源の動向を判断した。2001年度のCPUEは11.8で、1985年以降のCPUEの変動幅（10.0～13.7）の中位に位置することから、資源水準は中位と判断した。また1997年度から2001年度までの5年間のCPUEは、11付近を中心にわずかに変動していることから、資源動向は横ばいと判断した。資源量の指標値であるCPUEが近年安定した値を示していることから、現行の漁獲努力量の水準が資源に対して過度な漁獲圧となっているとは考えにくい。



管理方策

現行の漁獲努力量の水準が過度な漁獲圧ではないと判断されたことから、漁獲努力量の削減目標はごく小さく設定し、ABClimitに掛ける係数は0.9とした。漁獲量はその年に稼働する隻数によって大きく異なるため、操業隻数の異なる年の平均値を以てABC 算定の基準漁獲量とするのは適切ではない。そこで、2003年度についても2001年度と同様の操業が行われるものと仮定し、2001年度の漁獲量に0.9を掛けてABClimitとした。また、ABCtargetはABClimitに0.8を掛けて算定した。

	管理基準	A B C (トン)	漁獲割合	F 値
A B C limit	0.9Ccurrent	2,641	-	-
A B C target	0.8 ABClimit	2,112	-	-

資源評価のまとめ

- CPUEを資源水準の指標として資源動向を推測
- 1985年以降のCPUEの推移から資源水準を、最近年5力年のCPUEの動向から資源の動向を判断
- 2001年のベニズワイ北海道西系群のCPUEは、1985年以降のCPUEの変動幅の中央に位置
- 現行の漁獲努力量の水準は過度な漁獲圧とはなっていない

管理方策のまとめ

- 漁獲努力量の削減目標は小さく設定
- 2001年の漁獲量を0.9倍した値を2003年のABClimit、ABCtargetはABClimitを0.8倍して算定